

ロンドンマラソン 2018 でキプチョゲ選手（ケニア）が3度目の優勝

1981年市民マラソンとして始まり、38年目を迎えたロンドンマラソン2018が今日行われた。例年の4月は気温15℃前後でランナーにとって走りやすい典型的な British Spring だが、今年4月は暖かい日が続いており、一昨日のロンドンでは28.3℃と1948年以来70年ぶりの暑さとなり早くも British Summer が訪れたのではと思うほどだった。

今日は快晴で24.1℃、ランナーにとっては少し暑い日となり、リオ五輪の男子マラソン金メダリストエリウド・キプチョゲ選手（ケニア）が2時間4分17秒で2年ぶり3度目の優勝となった。2位はトラ・シュラ・キタタ選手（エチオピア）で2時間05分00秒、3位はイギリスが期待していたモハメッド・ファラー選手で2時間6分32秒だった。

今日のロンドンマラソンのスタートはいつもと違って、なんとエリザベス女王が週末を過ごされるウインザー城から、公式スタートの合図を10:00に送ると言うものだった。その模様がBBCで二元同時中継で放送された。

コースは国際標準時の子午線で有名なグリニッチ天文台があるロンドン東部のグリニッチ公園をスタートし西に向かい新金融街カナリーワarfを通りタワーブリッジを渡りテムズ川沿いを走り国会議事堂横・官庁街を抜けバッキンガム宮殿前のマルと呼ばれる大通りがゴールとなるロンドンの名所旧跡を巡るまるで観光ルートの様なコースである。

イギリス人から見た注目選手はなんといっても陸上5000mと10000mの世界王者モハメッド・ファラー選手（ソマリア出身でイギリス国籍）でロンドン五輪とリオ五輪で5000m/10000m連続優勝で金メダル4個、世界陸上選手権で金メダル6個、ヨーロッパ陸上選手権で金メダル6個と言う実績を持つスーパースターで、今回ロンドンマラソン初参加にもかかわらず、結果は2時間6分32秒のイギリス新記録で3位となりマラソンランナーとしても今後十分に期待される結果となった。

日本人期待の浜崎達規選手（沖縄県南城市役所）は2時間25分42秒で16位だった。ちなみに日本人選手の初優勝は1986年瀬古利彦選手で2時間10分02秒、翌年の1987年には谷口浩美選手が2時間09分50秒で優勝なんと日本人選手が連覇しており、この両名の記録が今回16位だった浜崎選手より15分も早かった事実に、日本人男子は東京五輪でとてもメダルが取れるレベルでないのではと懸念される。

ロンドンマラソンと言えば、2003年大会で2回目の出場となったポーラ・ラドクリフが女子の世界新記録2時間15分25秒を打ち立てて連覇しており、いまだに破られておらず、今日のロンドンマラソン女子で2時間18分31秒で優勝したビビアン・チェルイヨット（ケニア）も及ばなかった。

今回特筆すべきは日本の道下美里選手が女子視覚障害者部門で3時間04分00秒で優勝したことである。彼女はリオ・パラリンピックの視覚障害者部門で銀メダルを獲得しており、東京パラリンピックでの有力な金メダル候補であり、活躍を期待したい。一方男子の車いす部門で日本の西田ひろき選手と鈴木ともき選手が7位、8位に、こちらも東京パラリンピックでの活躍を期待したい。

以下の写真はBBCのテレビ中継映像から筆者がデジカメで撮影したもの



グリニッチ天文台から出ている子午線上でスタートを待つ**42000**人の参加者



ウインザー城で赤いスタートボタンを押す直前のエリザベス女王



走り出すのに**30**分もかかった後ろの参加者



歴史的な帆船カティーサーク号の横を通過



タワーブリッジ上の選手と観衆



宮殿前のゴールを目指す車いすレースの接戦

BBC の中継は車いすや視覚障害者マラソンの中継もこまめに行っており今回の参加者 42000 人の中にチャリティ目的での参加も多いと言われている。昨年のロンドンマラソンでチャリティ目的を持った参加者が集めた寄付金は、例えば小児がんサポート、難民サポート、里親サポート、障害者サポート等様々なサポートで集まった寄付金は£ 60M (約 90 億円) にもなり、人助けやボランティア精神旺盛なイギリス人気質の一端を表していると思う。東京マラソンもただ参加者するだけでなく、チャリティ目的を持ったより多くの参加者を期待したい。(了)